OMIYA MAIL NEWS

JTSU JR EAST TRANSPORT SERVICE WORKERS UNION
輸送サービス労組 大宮地本
JTSU-E OMIYA
2021.08.10
No.002
HOMEPAGE TWITTER

8月6日 大地申第7号

南行乗務員詰所の減築と新通路新設にともなう申し入れ交渉開催！【その1】

1. 乗務員通路を新設する目的を明らかにすること。

（回答）社員の作業環境向上のため、乗務員通路を新設する。

組　合

◆作業環境向上とは具体的に何か！

◆現場では誰も減築と通路新設を求めていない！多額な経費をかけて求めていないものをつくるべきではない！

◆赤字経営でコロナ禍にのタイミングでやるべきことなのか？時期を見直すべき！

会　社

■本区とのアクセスの改善

■大田の発足当初からアクセスの改善を求める声があった。その声に応えた。

■コロナ禍で中断した案件もあるが、赤字でも設備投資は緩めない。コロナ対策については、本区と橋上の休憩スペースを改良して収容人数を増やし対策もする。今後、南行詰所は詰所としての必要な設備は設置していく。

2. 乗務員通路新設に関する工事内容ならびに工事費用を明らかにすること。

（回答）こ線橋設置工事に伴い、旧グループ会社更衣室を乗務員用トイレに改修し、南行詰所の減築工事を行う。

組　合

◆工事費用は示すべきだ！

◆現在も輸送混乱が発生すれば蒲田場面での乗務員手配がうまくいっていない！今後大田本区が待機の基本となると、更に乗務員の送配がうまくいかなくなる上、時間もかかる。輸送品質の低下になる！

◆現行の南行詰所の問題点は何か？耐震工事後に元の規模の詰所に戻すべきだ！

◆現行の NEWDAYS 脇の通路は橋が出来ても使用できるのか？

会　社

■示すことは出来ない。東京のことなのでわからない。

■本区に乗務員が集中することで当直としては空振りが減り、乗務員が目の前にいることで送配もしやすくなると考える。出場に時間がかかることは輸送品質の低下には繋がらない。

■こ線橋を架けるには柱を立てなくてはいけない為、詰所を減築する。本区で十分機能を果たすから詰所を元の大きさに戻す必要がない。

■使用できる。

新設の目的と工事の時期は認識があわず意見が対立！
コロナ対策は不安が残る回答…

その2へ続く